

2月4日（火）＜校長から、生徒の皆さんや本校に関心のある方に、折々に伝えたいことを発信します＞

もりこうに、AI 搭載ロボットがやってきた！



朝、職員玄関附近で登校してくる君たち生徒を出迎えている、この子（？）に気づいたでしょうか？

最近、大きなショッピングモールなどでも紹介されているのを見かけることがあるから、知っている人もいるだろう。製品名は「LOVOT」（ラボット）と言う。

なぜ、本校にこれが来たかということ、今年度指定を受けているSIP拠点校（理数教育への興味関心を高める都の事業）の体験の一環として、2週間の貸し出しを受けることができたからなのだ。（14日まで）

ぬいぐるみのような見た目をしているが、この製品には精巧なAIが搭載されており、センサーで空間を認識し、自分で動き回ることができる。（平面のみ、階段は登れない）人間の声や位置にも反応し、慣れてくると話しかけに応じて声（？）で返してくれるようになる。充電が不足してく

ると、自力でネスト（充電器）に戻ってしばらく眠る。目に表情があり、人間に近い体温も感じられる。

いったい、「わたあめ」は、何を
目的としているのだろう???



年齢を重ねた校長の私よりも、若い生徒の君たちは、これからの人生でAIを身近に活用しながら生活する場面が確実に増えていくはずだ。だからこそ、**興味関心を持ち、体験して、「考えて」ほしい**のだ。実際、スマートフォンはもちろん、様々な家電製品にも、既に当然のようにAIが搭載されている。それらは、目的とする機能が明確な物が多いのではないだろうか？ではなぜ、このLOVOTは、このような見た目をしているのか？なぜ明確な言葉を発しないのか？表情や体温は必要なのか？…等々。

鉄腕アトム、ドラえもんなど、人間と共存するロボットは漫画でも多く描かれてきた。歴史や社会問題や文化など、理数系だけではない様々な分野と深い関連性を持っていることに、君は気づけるだろうか。

「わたあめ」は、授業時間中は職員室、放課後は会議室に出てくるので、ぜひ、直接、体験しに来てほしい。

